木曽川文庫

KISSO

Vol.3
1992 SUMMER

木曽川文庫は治水の資料館。
水の大切さや恐ろしさを歴史から学び、
これからの治水を皆様とともに
考えていきたいと思っています。
今回は水郷の里、長島町の歴史と現状、
そして現在進行中の治水事業をご紹介します。

INDEX

ふるさとの街・探訪記
▶情熱が、21世紀の長島を創造する。

面白WATCHING
▶旅行バックなんかいらない。
スニーカーをはいて、リバーサイド・WALKING

歴史ドキュメント
▶海抜マイナスゾーンの治水事業

TALK&TALK
▶治水事業の課題『安藤安男先生』

民話の小箱
▶川立地蔵の不思議な夢

建設省中部地方建設局
木曽川下流工事事務所

ふるさとの街・探訪記

情熱が、21世紀の長島を創造する。

長島町は木曽三川の運んだ土砂が堆積したデルタ地帯。本州太平洋岸の中部、伊勢湾の最奥、三重県の東北端に位置し、近鉄名古屋線、ＪＲ関西本線のほか、東名阪自動車道、国道1号、23号線が横断しており、交通の要衝となっています。海抜ゼロメートルの低平地で、周囲は木曽川・長良川・伊勢湾に囲まれ、一大輪中を形成しています。水に囲まれた長島町はそれゆえに洪水に苦しみ、その歴史はまさに『水との闘い』といえましょう。反面、水郷の町として、都市近郊の農業地域として発展を遂げ、『産業の活性化と快適。安全な暮らしをめざして』、まちづくり、人づくりに全力をあげています。

長島町全景

水郷の町長島の歴史

長島町は木曽三川に囲まれた、長い島の町。その名の由来は、南北に長いため、あるいは七つの州を囲んだ『七島』だからともいわれており、その地名が初めて歴史文献に現われてくるのは、平安時代末期です。

寛元3年（1245）には、前摂政藤原道家が故あって長島の地に流され、以来戦略上の拠点として幾度も戦渦に見舞われました。

江戸時代に入ると、菅沼氏、松平氏などが長島藩主となり、新田開発や治水事業が盛んに行われ、また、東海道の熱田宮の渡しから海上の七里の渡しや、佐屋の渡しは、いずれも長島を縫うように通行し、交通の要衝としてもにぎわいを見せていました。

明治時代には、近代的治水事業・明治改修が行われ、長島は現在のような地形となりました。その後、昭和34年（1959）の伊勢湾台風により、ほぼ全町が水没。壊滅状態に陥りましたが、人々の努力により完全に復興。現在は「第２次長島町長期総合計画」のもと、21世紀に向けて、積極的なまちづくりに取り組んでいます。

願證寺の門徒が一斉に蜂起した長島一向一揆

尾張の織田信長と一向宗の願護寺の間に起こった戦いは、日本の歴史上でも、最も悲惨な戦いであったといわれています。

親鸞上人による浄土真宗は八世蓮如の頃、教勢が著しく拡大。蓮如の子蓮淳が、長島の杉江にある願證寺の寺主に迎えられたのは、明応6年（1497）のこと。当時長島は伊藤一族の支配下にありましたが、その圧政に耐えかねた農民が願證寺に集結。一族をこの地より追い払い、事実上の支配権を握るようになりました。願證寺は信長に追われた落武者を受け入れてからさらに強大化。元亀2年（1571）、3回に渡る信長との決戦が始まったのです。網の目のように入り組んだ木曽三川河口や輪中地帯の利点を生かし、最後まで抵抗した長島城も天正二年（1574）には落城。『死ねば極楽』と勇敢に戦った一向宗門徒の多くは殉死。その願證寺は明治の河川改修により、今では長良川の河床に沈んでいます。

長島一向一揆殉教之碑

木曽川筋尾濃勢三国之図

豊かな水の恵みが生んだ特産物（農業＆水産業）

水とともに生きる長島は、自然の恩恵を受けて農業が発展。トマトの新種である「ハウス桃太郎」の先駆的産地であり、生産量及び品質を誇っています。また近年脚光を浴びる「なばな」は長島町が発祥の地であり、名づけ親です。油菜の一種で、若い芽や葉、茎の部分を食用とし、ビタミンも豊富。各地の食卓へ届けられています。

ノリの養殖は長島を代表する水産業です。他にも、ウナギ、ボラ、コイなど、河口域ならではの鮮魚が漁獲され、ウナギやボラ雑炊は長島の郷土料理としておなじみです。また、シーズンにはしじみ採りを楽しむ、たくさんの人々の姿が見られます。

長島町特産品

明治改修と影の功労者たち

木曽三川下流部に位置する輪中地帯は、海抜ゼロｍ地帯。人々は度重なる水害に苦しんできました。そんな窮状を打開するため、明治20年（1887）、三川の分流を目的とした明治改修が着手されました。長島町の横満蔵地区は、明治改修の第一歩を踏み出した記念すべき場所です。

明治26年（1893）には長良川工事に着手。長島輪中の西部、松ノ木～千倉地内に新堤を構築し、長良川の新河道を開削しました。この明治改修により水害は激減しましたが、広域に渡って潰地が発生。横満蔵の太田松次郎は北海道移民政策に呼応し、率先して移住を勧め、明治28（1895）～32年（1899）まで174世帯が移住し、苦前村などの原野へ入植。当初は苦難の連続であった開拓もやがては結実しています。苦前町にはふるさと長島をしのんで長島という地名が残され、昭和56年には長島・苦前の友好町の関係が成立。以後両町の交流は年を追って盛んになっています。

明治改修着工の碑

これからの治水事業

『長良川河口堰建設の現状』

木曽川や揖斐川は、上流部のダムによって、洪水時のピーク流量を軽減する治水対策が進められてきました。

しかし、長良川には洪水調節のダムを建設する適地がありません。このため、洪水時の流量の大部分をそのまま流さなければならず、その負担は大きなものとなっています。

長良川がいかなる洪水に際しても、安全に水を流すためには、断面積を広げなければならず、これには川底を掘る浚渫が最前の方法です。

そこで現在、塩水の遡上を食い止め、浚渫を可能にする長良川河口堰の建設が急ピッチで進められています。

堰上流部の淡水化された水の一部は都市用水として、毎秒最大22.5㎥を供給。地盤沈下の進んでいる濃尾平野で地下水汲み上げの肩代わりの一助ともなり、中部圏にとって重要な事業となっています。

長良川河口堰完成予想図

旅行バックなんかいらない。スニーカーをはいて、リバーサイド・WALKING

豊かな水郷の町、長島町。
緑はますます鮮やかに、まばゆい夏の太陽は川面を染めあげる。
ここには、水の育んだ自然や風土、そして歴史が息づいています。
水とともに生きる人々の、明るい笑顔が満ちあふれています。
だから、もっとポジティブに、もっとアクティブに、
川の流れに耳を澄まして、
すてきな水のメッセージを聞きに出かけませんか？

輪中の郷ふるさとセンター完成予想図

歴史ゾーン

1 輪中の郷・ふるさとセンター

「輪中」をテーマに、郷土の歴史や文化に親しむ輪中の郷。その第一弾としてオープンしたふるさとセンターは、長島町の成り立ちをわかりやすく説明した展示コーナーや、楽しみながら郷土が学べる映像ホールから成るコミュニケーションスペース。平成五年春には郷土資料館や農業体験実習棟もオープンの予定。心の豊かさをはぐくむ総合的レクリエーションの場をめざしています。

2 伊勢湾台風復旧仮締切工事完成記念碑

昭和34年の伊勢湾台風により、長島町のほぼ全域が水没。堤防の応急締切工事は日夜急ピッチで進められ、最後に松蔭地先決壊箇所の潮止工事が完了したのは、決壊より五四日目のことでした。

3 七里の渡しと青鷺川

尾張の宮と桑名の間は、有名な「七里の渡し」。干満の差や、天候、船の大小によって、いろいろなルートが利用されましたが、17世紀末になると、満潮時の木曽川と長良川を結ぶ航路は、青鷺川～白鷺川に固定。しかし、明治20年代の河川改修によって青鷺川は廃川となり、埋め立てられました。現在は国道23号線が通り、往時の面影はなくなりました。

レジャーゾーン

1 長島温泉スパーランド

昭和38年、良質な温泉が噴き出したこの地区は、東海地区最大級のレジャーランドに発展。最新の乗り物や夢があふれるイベントがいっぱいです。年間約400万人が訪れ、幸せそうな笑顔が満ちあふれています。

2 長島運動公園

野球、テニス、サッカーなどのグランドがある木曽川河川敷。仲間とさわやかな汗を流しながら、豊かな自然の中で思いきり深呼吸。

3 リバーサイドリゾート

水辺ではマリンスポーツが花盛り。ジェットスキーやウィンドサーフィンなど、アクティブ派の若者たちが各地から集まります。

熱田桑名渡海之図

長島温泉スパーランド

七里の渡し旧跡の碑

伊勢湾台風復旧仮締切工事完成記念碑

長島町を彩る季節の祭り

石取祭（萱町・中町・下町）

―7月24・25日― ※長島町の無形文化財

三台の山車が提灯をともして町内を練り歩く石取祭りは長島を代表する祭りの１つ。稲荷社境内の秋葉社の石取神事として行なわれ、神社の玉垣の敷石を一年に一度更新するために、美しい石を町屋川から拾い取ってきたのが始まりです。

水郷まつり

―8月2日―

長島町の夏を彩る一大フェスティバル。仕掛け花火や金魚すくい、子供相撲大会、特産品品評会など、情緒たっぷりのおまつりは、夏の風物詩として人気です。

北島獅子舞（西方面）

―9月14・15日― ※長島町の無形文化財

元禄12年（1699）、北島村の氏子より獅子頭２頭、天狗面２面、太刀１振りが八幡神社に奉納され、以後毎年９月14日には、北島神社で、15日には八幡神社で獅子舞の行事が行なわれています。

コラム「だからNO.1」

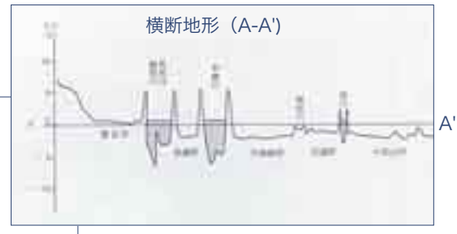
KISSOをご愛読の皆様へ。編集部から耳寄りなお知らせです。KISSOでは、あなたのナンバーワンをお待ちしております。絵画、作文、俳句、工作など、川にまつわる作品ならなんでも結構です。どんどんご応募下さい。応募作品は厳正なる審査の上選考し、当選作品はKISSO誌面に発表。と同時に、木曽川文庫にも展示させて頂きます。皆様の作品を、お待ちしています。

● 応 募 先 ●
船頭平閘門管理事務所
木曽川文庫〝KISSO編集部〟
〒496愛知県海部郡立田村福原
☎(0567)24-6233

海抜マイナスゾーンの治水事業

――地盤沈下と内水排除――

濃尾平野は日本で最大の広がりのゼロメートル地帯。高度経済成長のあおりを受け、地盤沈下は急激に進行。周囲を水に囲まれた長島町では地盤沈下は深刻な課題です。そこで建設省では高潮堤防の補強事業や内水対策を実施。水害のないふるさとづくりをめざしています。



伊勢湾台風と高潮堤防

昭和34年九月二六日に襲来した伊勢湾台風の規模は我が国史上三番目、その被害は他に類のない激しいものでした。異常潮位のため各地で堤防決壊が起こり、海抜０ｍの低平地帯三一、〇〇〇haの地域に海水が侵入。地盤の低い沿岸部では一二〇日も湛水し続けました。

長島町を囲む堤防は15カ所で決壊し、町の大部分が海水にのまれ、死者三八〇名余り。その惨状は目を覆うものがありました。

伊勢湾台風災害復旧事業は昭和37年度に完成しましたが、海抜０ｍ地帯では、昭和35年頃から進行した地下水の汲み上げを主因とする広域地盤沈下でさらに拡大。伊勢湾台風級の台風に耐えうる高潮堤防も、この地盤沈下により、機能が低下しました。

堤防のかさ上げによる緊急対策は、昭和63年度で一応完了していますが、高潮堤防の本格的補強はこれからが本番。建設省では河川の改修事業と併せて懸命に取り組んでいます。

沈静化をみせる地盤沈下

長島町白鶏地区内の地盤沈下は、昭和36年から平成2年までの累積で一五八㎝に及ぶ沈下量を記録。常に高潮、洪水、内水氾濫等の不安がつきまとっています。このため東海三県で地下水汲揚規制と地下水監視を実施。年間の沈下量は昭和50年をピークに減少、同55年頃からは僅かな沈下量となっていますが、今後も地下水監視と地盤沈下防止対策の一層の強化が大切です。

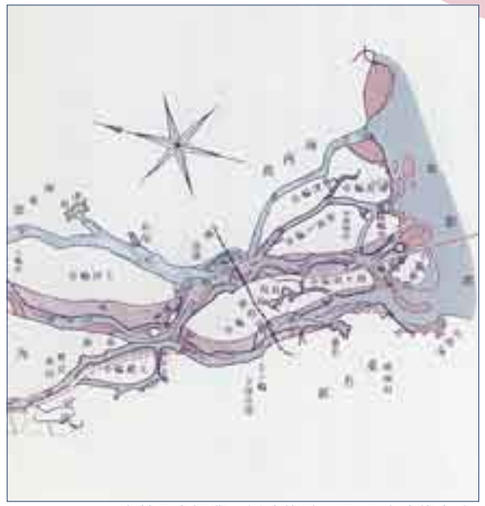
長島町役場前の地盤高と潮位の関係を示す表示板

着々と進行する内水対策

長島輪中では湛水した水を自然に排出することが困難なため、排水機場を各地に設置しています。しかしながら、昭和49・50・51年に深刻な内水被害が発生。このため建設省では、昭和57年から長島川流末に長島排水機場の建設を開始。全体排水計画では10㎥／秒のうち、現在、４㎥／秒のポンプが2台設置されています。さらに長島川や用水・排水路の整備が進み、長島輪中内の排水系統は、千倉・福豊・大島・松蔭の四系統で整備されています。

長島排水機場全景

花園大学文学部教授
伊藤安男先生


木曽長良揖斐三川改修計画図(明治改修当時)

輪中地帯の水防意識

「…今や決壊せんとする一刹那、大垣藩士の水防土出張り来り水防夫を督励し、遂に堰め得たり。其の動作の活発にして激烈なり、実に古昔の戦争も斯くやと思われたり…」これは江戸期における大垣輪中の水防活動をリアルに描写したものです。

かつての輪中地域の輪中堤の規模は、現在の連続堤からみれば、まことに貧弱なものでした。しかし、洪水回数に比較してその被害は軽微なもの。それは氾濫パターンの相違もありますが、それにもまして地域住民の強い水防意識、言うならば輪中意識によって支えられていたのです。

この地方の人々は、その特有の気質として〝輪中根性〟をひきあいに出します。その場合に多分に自虐的な意味を込めています。アクティブな治水行政の未熟な時代にあっては、わが輪中のみを守り抜く強い水防意識―防災意識―のみが唯一の精神的なバックボーンであったのです。この意識が必要以上に高揚されると水論となり、対立抗争へとエスカレートしていく。これが俗に言われる流血の水争いです。

しかし、かつての輪中の人々も決して妥協を知らなかったわけではなく、さまざまな熟談和解のための約定をもっていました。

例えば、隣接する輪中堤の堤高を制限する定杭約定や、納得金約定、江代米約定などがそれです。輪中地域という特異な環境を考えるとき、いま一度、輪中の人々が創り出した生活の知恵を想起してほしいと思います。

伊藤安男（いとうやすお）
花園大学文学部史学科教授。日本地理学会評議員、岐阜地理学会会長及び岐阜県郷土資料研究評議会会長。輪中研究にて岐阜県芸術文化奨励賞受賞。
主なる著書『輪中』『長良川を歩く』『岐阜県地理あるき』など。
主なる論文「輪中の災害と治水」「輪中の水論」「蘭人技師デレーケと砂防」「明治前期の治水思想」「木曽川改修工事とその前史」など。

長島町の排水機場の変遷

木曽三川の河口にできた三角州が変貌して島となった長島町は、島を水から守るため、輪中が作られました。用・排水は潮の干満に委ねられ、各集落の外面に水門を建てて水の管理に当たり、『水守』役員制度発足しました。

明治38年には千倉に初の二段式蒸気機関による排水機場を設置。満潮時には休止しなければならなかった自然排水に比べ、大いに能力を発揮。大正6年、蒸気による水車式排水機を近代的な、渦巻式スクリューポンプに改良。煉瓦造りの大煙突が建てられ、一時は長島町の風物ともなっています。昭和6年には、蒸気機関を廃し、電動機に改良。湛水の被害も減少し、豊かな実りの秋を迎えたと伝えられています。

大正時代の排水機場

民話の小箱

川立ち地蔵の不思議な夢

三重県長島町

昔の昔、まだ江戸に幕府が開かれる前のお話です。

木曽川や長良川、揖斐川の下流には、小さな輪中がいくつもありました。村の人たちは堤防を作り、木を植え、自分たちの家や田畑を守ってきました。そんな輪中の一つに西川輪中がありました。

いつの頃かはわかりませんが、この西川輪中に一体のお地蔵様が安置されていました。この土地は、低いところでたびたび洪水が起こり、浸水しました。そのためこのお地蔵様も、その度ごとに水浸しになることが多く、村の人たちは「足冷やし地蔵」とか「川立ち地蔵」とか呼んでいました。

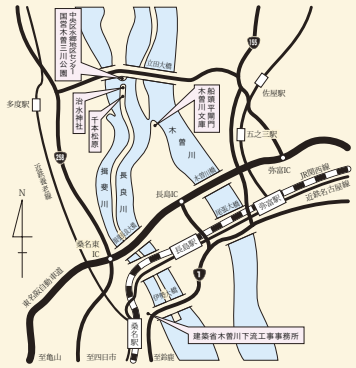
ある時、百姓喜助という人は、お地蔵様が長い間、沼田の中に立っているのを気の毒に思いました。そこで少しでも水につからないところを探し、近くの堤の上に安置しました。するとその夜、喜助はうわ言をいい、この世のものとも思えない行動をとりました。喜助の奇妙な行動は、その日から幾日も続きました。家族は、どうして喜助がこのようになったのかわからず、途方に暮れ、嘆き悲しみました。何日か過ぎた夜、喜助の夢に突然、お地蔵様が現われました。お地蔵様は、

「我は水に溺れて死する衆生を助けんために、水に浮かんで立っているのである。急いで元のところに帰らせよ」

喜助は突然夢からさめたようになり、夢の中での出来事を、家族に話しました。家族はたいへん驚き、お地蔵様をすぐに元の沼田に返しました。その日から喜助は、元気な喜助に戻り、二度と気がふれることはなくなりました。

寛文年間には（1663年ごろ）、お地蔵様は沼田から一丁あまり北にある八十河原に移され、松の木の根元にお堂が建てられて、安置されるようになりました。

木曽川文庫利用案内



《開館時間》 午前9時～午後4時30分
《休 館 日》 毎週月曜日・祝祭日・年末年始
《入 館 料》 無料
《交通機関》
国道1号線尾張大橋から車で約10分
名神羽島I.Cから車で約30分
東名阪長島I.Cから車で約10分
《お問い合わせ》
船頭平閘門管理所・
木曽川文庫
〒496 愛知県海部郡立田村福原
TEL(0567)24-6233

編集後記

4月4日、ヤコブス・デレーケ夫妻（デレーケの子孫）が海津町チューリップ祭りに主賓として来日。5月17日には、明治政府が招聘したオランダ人技師の足跡を取材するため、オランダからルイファン・ハステレン氏率いる撮影隊が来日。木曽川文庫や治水神社などを撮影するなど、数多くの名士が来館されました。

KISSO Vol.1．3編集にあたっては長島町職員の方々に大変お世話になり、ありがとうございました。

次号は木曽岬町特集です。ご期待下さい。

(NON)

（表紙写真　左　：長島温泉スパーランドの花火
右上：北島獅子舞
右下：長島運動公園と木曽川）

『KISSO』Vol.3　平成4年7月発行
発行：建設省中部地方建設局木曽川下流工事事務所　〒511三重県桑名市播磨81　TEL(0594)24-5715
制作：財団法人河川環境管理財団　〒450愛知県名古屋市中村区名駅四丁目3番10号（東海ビル）　TEL(052)565-1976